# JAC北九だより NO.35 (平成19年第3号)

社団法人 日本山岳会 北九州支部 Kitakyushu Section of The Japanese Alpine Club 発 行: 社団法人日本山岳会北九州支部 事務局: 北九州市門司区新原町12-27

関 口 興 洋 方

TEL·FAX 自宅 093-382-6436 携帯 090-8919-6776

発行人:大庭常生

編集人:関口興洋・伊藤久次郎

## 平成19年 第8回通常総会の報告

講演に本部から野口いづみさんを迎える

事務局 No.13643 関 口 興 洋



講師の野口いずみさんを真ん中に記念撮影

平成19年4月21日(土) 午後2時より、大谷会館にて第8 回通常総会が開催されましたので概要を報告いたします。

1. 大楠副支部長の開会の辞に続き、西村委員より会員の 状況報告が次の通り行われた。

平成19年3月31日現在の在籍会員数は、本部会員79名、支部会員76名、合計155名。本日の出席者は本人42名、委任状提出者68名、合計110名。したがって、本日の総会は会員現在数の1/3以上が出席しているので有効に成立している旨報告。

支部長挨拶の後、大庭支部長を議長に選出し議事の 審議に入る。

第1号議案 平成18年度事業報告を原委員より行う。
第2号議案 平成18年度収支決算報告を馬場委員より行う。

第3号議案 平成18年度監査報告を大城戸監事より 行う。 第4号議案 平成19年度事業計画(案)につき細 川委員より説明。

第5号議案 平成19年度収支予算(案) につき馬 場委員より説明。

審議の結果、全議案につき承認可決された。 伊藤副支部長より閉会の挨拶。

3. 記念講演

大楠副支部長の司会で、講師の野口いづみさんの紹 介が行われた。

野口いづみさんの略歴 東京医科歯科大学卒 鶴見大学歯学部麻酔科准教授 日本山岳会理事、医療委員会 委員、ペルー最高峰ワスカラ ン北峰 (6655m) 登頂。

テーマ: 「中高年登山者の病気

一登山中の病気の予防と対処一」

講演は液晶プロジェクターを使って行われた。82 コマの内容は主として成人病の因果関係と対処方法及び登山中のケガの対処方法につき説明されたが、大変中身の濃い有益な講演であった。 聴講者には 14 ページにわたる資料が配布された。 紙面の都合で全体の内容は省略するが、当日、聴講できなかった方で資料を希望される場合は事務局へファックスでご連絡ください。

#### 4. 懇親会

日向委員の司会で開催。大庭支部長の挨拶のあと、秦 野前支部長の乾杯の音頭で開宴。40名の出席者で大 いに盛り上がり、会員同志の友好を深めるよい機会とな った。なお、野口講師は鹿児島への移動があり、途中退 席された。

以上

## 総会及び懇親会参加者(敬称略)

秦野一彦、園川陽造、大庭常生、日向祥剛、吉永威幸、 溝部忠増、大城戸昌敏、原 広美、細川 功、大楠益弘、 金光 功、板倉健一、伊藤久次郎、橋本美和、西村信子、 野嶋 豊、浦田和夫、馬場基介、磯野文雄、関口興洋、 村上 強、藤田 傅、片山礼子、橋本健一郎、西村俊二、 太田 満、室津健次、中村昭彦、山田武史、高城季美子、 三木靖子、中岡邦男、丹下 治、小林冨雄、大木康子、 石川信之、山下定治、丹下香代子、榊俊一、山田加寿 彦、山 義雄、伊藤卜モ工、牧 寛、

合計43人

## 福智山(901m)清掃登山に51人参加

5コースからゴミを拾いながら山頂へ



平成19年3月17日(土)、北九州市門司区の登山教室15人を含む北九州支部会員約51人が、北九州、直方、福智町など3市から五つのルートに分かれて、残雪が残る福智山(901m)に清掃登山を実施した。

#### 福智山清掃登山の報告と参加者名

計画・主催 日本山岳会北九州支部 計画担当 大楠益弘 総括リーダー 伊藤久次郎

<u>A班 ほって谷新道コース</u> (リーダー:西村信子) 鱒淵ダム(AM9:00出発)~ほって谷新道~山頂~鈴ヶ 岩屋~鱒淵ダム

参加者:西村信子、西村俊二、高城季美子、 横山洋子、立石サツミ、佐藤照美、藤山辰乃、 室田安代、小野秀明(ビジター)(計9人)

<u>別行動隊 ほって谷新道コース</u>(リーダー: 大楠益弘) 参加者:日本山岳会北九州支部が主催する門司

の登山教室受講者 (計15人

<u>B班 七重の滝コース</u> (リーダー:浜松礼子)

鱒淵ダム (AM8:10出発) ~七重の滝~山頂~ほって谷 新道~鱒淵ダム

参加者: 舛木 隆、浜松礼子、丹下 洽、正本明子、 八木國子、 神代かず子、吉村保夫、森本信子、 岡本千哿子、畑野豊子、山南(ビジター)、 渡辺(同) (計12人)

C班・D班合同 白糸の滝コース〜上野越えコース

(リーダー:太田 満)

上野峡大駐車場 (AM9:00出発) ~虎尾桜~山頂~上野峡越え~上野峡大駐車場

参加者:太田 满、大城戸昌敏、伊藤久次郎、

伊藤トモエ、高畠拓生、山田武史、米森 美州(ビジター)、古賀記者(毎日) (計8人)

<u>E班 直方内ガ磯コース</u> (リーダー:中岡邦男) 内ガ磯福智ダム (AM8:30出発)~なぎの小屋~上野越え~ 山頂~荒宿荘~大塔の滝~なぎの小屋~福智ダム

参加者:中岡邦男、中岡 進、井上豊治、山本 唯 志牟田浩之、浦田祐樹、藤野 浩 (計7人) (合計51人)

#### 総合結果

どのコースもルート上はゴミは少ないが、ルートから横の藪 の中へ10mも入ると投げ捨てられたゴミが見られる。又、人目に つきにくい滝つぼ近くの岩陰などにビンや缶が隠すように捨てら れていた。狸水付近もゴミが多かった。休憩所などの周囲は、10 mも入ると昔捨てられた酒瓶やジュースの缶などが多かった。

(伊藤Q)

#### 福智山清掃登山

## 新聞社の目的に共有し実行

No.14264 丹 下

3月月例山行が福智山清掃登山と知り、毎日新聞社が「水と緑 の地球環境保護活動」を行っているので、目的を共有できると思 い、大楠副支部長の了解を得て、取材を申し入れた。かって、清 掃登山は「登山者が汚した山を登山者が清掃するのは当然」でニ ュース性に欠けるとの考えもあったので、北九州支部は九州営林 局の委嘱を受け森林保全巡視員としての活動を行っていることを 説明し、理解を求めた。 3、4月は統一地方選のため、紙面に余 裕がない場合は無理かもとのことであったが、編集局長の選挙関 連の報道は大切だが、紙面には多面性も必要との判断で、登山経 験のある直方駐在の記者を派遣して下さる事となった為、当日は 直方側からのルートが取材の中心となった。紙面は西部本社管轄 の広域に掲載された。

## 福智山系に日本最大の間欠冷泉!?

話は変わって、ご存知の方も多いでしょうが、福智山の満干林 道の奥に間欠冷泉があります。火山性の高熱やガスの圧力で噴出 する間欠泉と違い、間欠冷泉はサイフォンの原理で湧出するもの で、日本では5カ所あります。又、かっては英彦山の峰入りは直 方~尺岳~福智山~焼 立山~満千分かれ~満千越(峠)~竜ヶ鼻 権現~そして採銅所で宿泊が第一日目の行程でした。この峰入り の道と満干間欠泉を結ぶコースは福智山周辺の一般ルートとは趣 を異にする山歩きが楽しめます。但し間欠泉は規則的に湧出せず、 私も過去3回の内、一度だけ、断続的な水流を確認したのみです。 運が良ければ・・。但し季節によりまむしに注意。

最後になりましたが、清掃登山に参加された皆様、又、取材に ご協力下された方々に心より感謝申し上げます。

# 毎日新聞の報道記事 2007.3.18 17日

Pと福智町にまたがる福 |本山岳会北九州支部 20万人が登る人気の山

これで5150回目 65 は 「頂上からの展望 いにして楽し

山を やたばこの吸い殻など。

ルやジュースの空き缶 集まったのはビ

## 間歇(欠)冷泉とは

石灰岩地帯で稀に見られる珍しい湧泉の一種。 サイフォン構造をもつために、地下の貯留槽が満 杯になると、突然に湧出を始める。サイフォンと は、ホースを使って湯船の湯を吸い出す子供の水 遊びの原理である。。。。小倉南区の鱒淵ダムの上流紫 川の源流部に「満干の潮」と呼ばれる日本最大の 間歇冷泉があり、北九州市立自然史歴史博物館の、 藤井厚志理学博士が1987年にこの間歇冷泉を確認。 いずれ天然記念物に指定される予定である。この 他に福井県武生市、岡山県新見市、広島県東城町、 熊本県球磨村にも間歇冷泉がある。

(丹下氏の資料から)

福智山清掃登山

## 思いがけない残雪に感激!

大里南市民センター 登山クラブ幹事 河 内

昨年5月から10月まで、門司区大 里南市民センターで開催された初心者

登山講座(主講師:大楠益弘先生)が 終了するに当たって、受講者を中心に 総勢15名で平成19年4月から登山同 好会を立ち上げることになり、現在会 の名前を思案しているところです。今 年1月から3月はその予行期間で、2 月は雨のため中止になりましたが、1 月が門司区内の戸ノ上山で、今回3月 が福智山登山でした。

個人的には福智山は、定年前の10 年余りの勤務地が小竹町内だったので、 遠賀川をはさんで四季折々の優しい姿 を毎日仰ぎ眺めておりました。「将来こ の山に登ることがあるかなあ?」と漠 然と考えていましたが、こんなに早く チャンスが来るとは思いませんでした。 市民センターの企画のおかげです。

登山当日は、一週間前の天気予報とは違って晴天に恵まれ、登山開始地点

の鱒淵ダムを起点にメンバー15名全員の参加となりました。講座最終回の昨年10月と今年1月の戸ノ上登山時にくらべ、皆さんの健脚ぶりもずっと向上し、400m近くも高い福智山にほぼ予定時間通りに登頂。頂上付近は思いがけない残雪にも遭遇でき、晩冬と早春を同時に感じられるひとときとなりました。また、頂上付近からは、東に貫山、足立山と小倉の町が、北は戸畑、八幡、若松方面、

西には直方、鞍手の町々が眺められ、下界では味わえない爽快感も感じることができました。山登りにはそれほど関心のなかった私にも楽しみの一端が見えたような気がします。そして、大楠先生がおっしゃった『この山にこのペースで登れば、ほかのどの山も大丈夫』(半分お世辞でしょうが)の言葉に大いに自信を深めて山をあとにしたことでした。

## 下関地区で救急救命講習会開く

No.12364 細 川 功

日 時:07年4月7日、9:00~12:00

場 所:下関市長府支所·公民館第一研修室

講 師:下関北消防署・加藤様、下関西消防署・内田様、 下関東消防署・平川様

内容:この最近、地方自治体、スポーツ施設などの多くの人が集まる場所へのAED (Automated External Defibrillator・自動体外式除細動器)の設置が進み、本装置は救急用具として非常に有効であり、大きなイベント等での使用実績で証明されている。その取り扱いは非常に簡単である。

JAC北・では昨年北九州地区で開催、今回、下関地区での開催を企画実施した。

講師は下関消防局の救急救命士と消防隊員の計3名があたられた。

#### 1. 消防局の組織についての説明。

下関地域の消防組織の詳細については我々あまり知らないのが実情でこの点について通報システムの説明を 受ける。

119番通報の要領、「火事か救急か」「正確な場所」「状態」「通報者の氏名」を知らせることが大切である。

#### 2. 応急手当の基礎知識。

大切な命を救うために必要な行動については、A早い通報、B早い応急手当、C早い救急処置、D早い医療処置が必要な項目でこれらは「救命の連鎖」と言われている。特に、我々が行えるのはAとBで有る。

傷病者の状態によって救える時間は異なるがいずれ も短い時間であり、素早い処置が必要である。人形を 使った実践に近い形の処置方法を学ぶ。

#### 3. 救命手当の基礎・心肺蘇生法。

けがや病気により、傷病者が意識障害、呼吸停止、心 肺停止などに陥ったときに心肺蘇生の処置が有効とな る。近くに「AED」が有れば直ちにAEDを使用する。AED



下関消防局から3名の講師を招いての救急救命講習会

が近くに無い場合は人工呼吸(マウスツーマウス)と心臓マッサージの処置を行い、AEDあるいは救急車が来るまで続ける。

AEDは心肺停止の状態の傷病者に対して心臓へ電気ショックを与えることで心臓の鼓動を復活させる装置である。以前は医者が心電図から判断して心臓への電気ショック治療を行っていたが、AEDは傷病者の状態を測定し、この医者の判断を自動で行い、電気ショックが必要な場合は直ちに実施する指示を行う。徐細動とは心臓の痙攣を取り除く事である。

心肺停止から1分、徐細動が遅れるごとに救命率は7~10%低下する。このことは10遅れると殆ど助からない事である。

#### 4. その他の応急処置。

その他、圧迫止血法、止血帯、三角巾、患部の固定法等については登山での救急に有効な処置方法である。患部の固定にはその場にあるものを使い固定する。例えば、段ボール、ストック、ピッケル、テープ、ネクタイなど使い方によっては有効となる。

#### 5. 終了証。

講習終了後、全員に下関消防局、発行の「普通救命講習修了証」が渡される。

本講習の内容は我々が日常使っている技術では無く、 非常時の技術であり、いざと言うときに素早く使える ためには日頃の訓練が必要であると思う。企業が毎年 実施している防災訓練のように1年に一度程度何らかの 形で訓練を行うのがよい。修了証にも2、3年間隔で定 期的な受講を進めている。 資料:「応急手当講習テキスト」、財)救急振興財団(救 急基金)発行の配布を受ける。

#### 6,参加者(17人)

11467 篠田勝行	北九206 🕏
11990 原 広美	北九255 🏗
12364 細川 功	北九322 均
13643 関口興洋	北九359 /
13983 森永義忠	北九389 衤
13991 中村昭彦	北九400 1
13992 山田武史	北九408 化
14051 三木靖子	北九412 🗦
14258 下道利治	

北九400 倉本とき子 北九408 佐伯近史 北九412 大内喜代子

容卿

| 本信子

#### 月例山行報告

## 北海道支部・北九州支部 南北交流登山特集

3月21日から5日間、北海道支部と北九州支部が北海道のニセコで交流登山を行った。参加した 北九州支部会員6人から山行記や思い出文を書いていただいた。



南北交流登山① (北海道「支部だよりNo.49」にも掲載) ムハイヤセタ乾杯? 北海道ひと冬の体験 北九州支部 11990 原 広 美

## はっぴで出迎えうける

3月21日10時50分福岡空港を飛び立ち13時05分新千歳空港到着。到着ロビーには新妻支部長、長谷川副支部長を始めたくさんの会員の皆さんが日本山岳会のはっぴを着て迎えて下さいました。

4台の車に分乗して二セコ五色温泉 へ直行5:30到着、山奥の風情ある温泉、 硫黄温泉で疲れを取る。 入浴後は大広間で懇親会。部屋に入ると日本山岳会の会旗が張ってある。 そしてその下には南北のそれぞれの地 酒がずらりと並んでいる。新妻支部長 の乾杯の挨拶から始まりそのお言葉は 「ムハイヤセタ乾杯!」一瞬アイヌ語 と思った。後で北九州参加者名 ムロ ツ、ハラ、イトウ、ヤマダ、セキグチ、 タカバタケ、の頭文字を取ったと説明 がありました。そして今回の南北交流 登山は随分前から計画をされており その歴史に残る第一号が北九州支部と のお話でした。私共にとっても大変光 栄です。

## チセヌプリ登頂

翌22日アンヌプリをチセヌプリへ変更、登山口へ向けて出発。今日はゴンドラを使用すると長谷川さんの説明があり高齢の我々6名は内心ほっとする。ゴンドラの下では自衛隊の若い九州隊員たちがスキーの特訓中のようだ。見とれている間に山頂駅到着、この地点でスノーシューやスキーを装着後8:50出発

スノーシューはA班=三戸部L、B 班=樋口Lに別れ広い雪原を山頂目指 して登って行く。空はブルースカイ、 山は真っ白、直ぐ横には羊蹄山が威風 堂々と構えている。後ろから支部長さ んがこんな天候はめったにない、吹雪 いたらこんなもんじゃないと説明して 下さるのですが、荒天時はどれほど厳 しいものか想像もつきません。

山頂11:20着。手作りサンドと暖かい 紅茶を頂き12:00下山開始。下山はハハ (原、長谷川)、夕夕(武田、高畠)、 ミイ(三戸部、伊藤)、ムリ(室津、梨 枝子)、ヒヤ(樋口、山田) それぞれペ アで下るがこれが急な下りでスノーシ ューを脱ぎたい気分。長谷川さんが技術 指導して下さるのですが、足がついてこ ない。その間、スキー組はスノーシュー 組の前を優雅にジグザグしながら滑って 行く。ちょっと深呼吸、遠く中村さんの スキーの後姿に暫く見とれていました。 と同時に関口さん頑張れ! とエールを 送る。

## 雪洞掘りに4時間

下山後、五色温泉の雪洞地点まで車で 移動、14:30より今夜の宿の掘削開始。 3箇所から掘り始めそれぞれが1mくら い奥に進むと今度は横に広げていく。2 箇所の壁を破りトンネル開通させたのは 梨枝子さんのお手柄、大変な作業だった



のでみなさん拍手で喜びあいました。私 も鋸とスコップで力いっぱい掘りました が雪が硬くスコップが入らない。全員く たくたになるほどよく働きました。午後 6時左右6m、幅120cm~170cmくら いの巨大ホワイトハウス完成、雪洞に入 り夕飯はラム肉のしゃぶしゃぶ。9時に は全員ねむりにつく。23日、高畠さん と私を除きイワオヌプリへ。スノーシュ 一班から聞いたところでは足元が凍って いたので山頂まであと少しを残して引き 返す。かなりの傾斜があるため九州組 は支部長より教わったバックキックで 下山する。

## ビール園で交流会

24日、小樽、札幌を案内して頂きあっと言う間の4日間 午後は秀岳荘にあるルームを見学、畳1枚分のスペースは全国 25 支部に向ける発信基地でした。

最後の夜はサッポロビール園のジンギ スカン料理を頂きながら、秋には九州の 山で会いましょうと約束する。支部長の 最後のご挨拶、登山は文化交流会である。 数年前当地で吉村元北九州支部長が炭坑 節を踊ったとか、今度北海道支部は ソーラン節を踊って両支部の交流を したいとの締めくくりでした。

北海道らしい白銀の世界を満喫、 労力を要する雪洞つくりに一晩だけ で終わるのはもったいない気分でした。とても楽しい充実した5日間でした。皆さまの暖かいおもてなしに感謝しています。今度は九州での再会を楽しみにしています。

南北交流登山の旅 ②

## 初めてのスノーシュー

No.13986 室 津 健 次

3月21日、新千歳空港から車4 台に便乗して道央のニセコ五色温泉 へ向かう。 車窓に雪を擁いた山々を眺め胸躍らせた。

## スノーシュー初体験

3月22日快晴、無風。スキー場のゴンドラで上がり、これよりスノーシュー班と山スキー班に分かれてチセヌプリ(1,135m)登山。スノーシュー着装にもたつき、支部長に履かせて貰った。お礼を言って、肩を組み合い片足を上げてポーズをとるまでは良かったが着地に失敗、支部長ともども後ろに転倒し大笑いとなる。

スノー班CL、新妻支部長、A班、 三戸部L、助田、長谷川、原、高畠に 続き、B班樋口L、武田、伊藤、室津、 山田で出発、途中先頭を順番に入れ 替わり進む。私の履いたのは支部長 と同じ、イタリア製の優れものらし いが、なにせ初めて着けたスノーシ ューで違和感があり何とも歩き辛い のと体力不足で前を行く隊員に遅れ がちになる。やがて雪に埋もれ頭を 少し出していたまばらな木々も姿を 消し、まったくの銀世界となる。勾 配も険しくなり、あえぎながら登る。 概ね2時間でチセヌプリ頂上に立ち、 お互いに熱い握手。360度のパノラ マ景観を堪能。感激の刻。丸く、広 い頂き、風を避けた場所で先着のス キー班と合流し軽食。集合写真を撮 り2名一組で下山開始。厳しい傾斜 に気を配りソロソロ下るが滑る。バ ランスを崩す。尻餅を何度もついた。 隊員誰もが一度は転んでいる。登り と違って新雪を踏む方が滑りにくい と教わる。転んでもこの日は柔らか な雪がブレーキとなり滑走すること なく止まる。恐怖感はない。 1 時間 20分くらいで下山、振り返るとは るか彼方に頂上からの直線状トレー スがかすかに見えた。

イワオ雪洞地点に移動、新居設営にかかる。出入り口となる三カ所の 雪壁に縦、横とノコを入れ、スコップでブロック状に雪の塊を取り出し 前進。内部でトンネル開通、万歳の 声。内部の雪質は固く17名収容の



助田梨枝子さん雪洞貫通を喜ぶ

雪洞掘りは重労働だったが、完成した新居での夕食、ラム肉のしゃぶしゃぶと酒の味は格別、9時過ぎにシュラフに入り就寝。

#### 小イワオヌプリ登頂

3月23日曇天、微風。前日同様スキ 一班、スノーシュ一班に分かれ、イワ オヌプリ(1,116m)登山準備中、高畠隊 員が不慮の転倒事故で右足負傷、原隊 員が付き添い残留。出発地は五色温泉 横からの山道、緩やかな傾斜に始まり、 昨日同様勾配はだんだん厳しくなる。 風もあり立ち止まると寒くなる。前日 の天気が嘘のよう、雪質もシャーベッ ト状から一部凍結状態と変わる。小イ ワオヌプリ着が11時過ぎ、イワオヌ プリは目前にあるが、1時間以上かか りそう。無理せず集合写真を撮り下山 する。前日より雪は硬く滑りやすい、 緊張する。途中で新妻支部長よりバッ クアンドキックの指導を受ける。雪面 に正対してストックを前につき、後ろ に大きく足を伸ばし下る方法。爪が確 実に効き傾斜の厳しい雪山で結構楽 に下れる。下山後雪洞を閉鎖し二セ コワイス寶亭留に移動。温泉で疲れ を癒す。

3月24日は小樽観光と札幌観光だ。函館本線日本海の旅情もしっかり味わい、山の店秀岳荘内の北海道支部ルームも見学。18時からは新妻支部長はじめ、個人装備の貸し出し頂いた方々など大勢の会員を交えてサッポロビール園で北海道支部との交流会が催され、大いに盛り上がった。ドーミーイン札幌でベッドに入ったのは夜も更けてからだった。

3月25日、札幌大倉山スキー場 観光、展望台から眺めるジャンプ台



新妻支部長の指導でバックアンドキックし ながら下りる室津氏



イワオヌプリをバックに小イワオヌプリにて(左から二人目が新妻支部長76歳!)筆者は右端

の迫力に感嘆し、広大な北の町札幌 の景観を十二分に堪能して福岡に向 かうJAL3512便の乗客となった。

今回の交流登山は、窓口となられ た関口さんのご苦労、スノーシュー、 シュラフ、ストック等の個人装備を提 供、車両提供と運転、安全な山行を 計画リード等していただいた北海道 支部会員の並々ならぬご支援とお世 話のおかげと深く感謝しています。 関口さん、新妻支部長、北海道の皆 様、本当にありがとうございました。

南北交流登山③

## 故郷の訛りなつかし

NO、13992 山田武史

我が故郷の苫小牧を離れて、30年 が経っている事を、今回の遠征で再認 識した。

北海道らしき白樺の自然はあるものの、高速道路は走り、石炭産業で栄えた、夕張市、室蘭市等は、衰退の一途。 札幌市に一極集中の感。この現実に喜悲こもごも。

今回会った北海道支部の方々は、言葉も綺麗な標準語にて、30年前とは 大いに違う。語尾のイントネーション に、わずかながら、懐かしさを感じた。

我々、北九州支部の面々(原、室津、 伊藤、関口、山田の5名=高畠さんの み一人別行動)は、長谷川副支部長の 案内で、札幌市内の時計台を見学後、 路線バスに乗り、白石区の北海道支部 の「ルーム」に向かったが、バスの車 窓より「とんこつラーメン」の看板が 見えた途端、「何か、懐かしいね」「里 心がつくね」「味は一緒だろうか、食べ てみたいね」等々の、我々の会話を聴いていたのだろうか。白石バス停で降りて、「ルーム」に向かう我々一行の後を離れもせず、一緒について来る60歳がらみの御婦人がおられた。

私はチョッと気になり振り向くが、矢 張りその方は、何か必死の感じで買い 物用キャリアーカーを引きながら、最 後尾でついて来る。信号待ちで一行の 歩が止まったのを切っ掛けとして、我 々に声をかけてこられた。

「皆様は、九州の方ですか?。私は、 門司なんです」と。一行は、その後婦 人に振り向き、皆、その御婦人を取り 囲んでの門司を中心とした近況

情報交換は、「ルーム」の前まで和やかに弾んだ。その御婦人は、門司の出身にて、札幌に来て、30年になる由。我々もビックリだが、その後婦人はきっと家に帰って、家族の方に、今日の出会いを心弾ませながら、話している事だろう。

故郷は、理屈なく良いもの。そして、 お国訛りは文化です。お国の古き良き 物を、後世に残す事の大切さを実感し た、今回の遠征でした。



南北交流登山④

## チームワークの良さに感動

No.13541 高 島 拓 生

北九州支部より6人が参加いた しましたこの期間中、送迎、登山、 雪洞、観光、ルーム見学、サッポ ロビール園にての交流晩餐会と北 海道支部の皆様に大変お世話になりました。厚く御礼申し上げます。 また私の、凍結した路上での転倒 事故では皆様にご心配とご迷惑を



ビール園での交流会。左が車椅子の筆者

かけまして真に済みません。帰宅 後入院手術治療中のところ、先月 4月28日(土)退院致しました。 私の初体験

- ①北海道での登山。
- ②九州では必要としないオーバー シューズの購入使用。
- ③スノーシュー着用と山スキース トックを使用しての雪上登山。
- ④雪洞設営、宿泊、鍋料理。
- ⑤凍結路面での転倒事故、長谷川

事務局長の患部固定テーピング の救急処置の速さ。

- ⑥救急車にての搬送。
- ⑦車いすと松葉づえの使用、移動 の苦労など。
- ⑧右足首骨折手術とリハビリ、26 日間の入院生活。

以上の初体験を致しました。

特に雪洞設営については雪洞位置の選定、搬出する雪の処理で谷側があること。

雪洞用スコップ、鋸の使い方、掘り始めの3カ所の入口位置選定。 雪洞横穴の貫通、寝床の広さ、高さ、小物を置く棚の穴、ローソクの位置、出入り口の扉用シート張り。その他仮設便所の設営と通りからの目隠し。駐車場から雪洞間 の階段、通路の整備など支部長の全般的指示に行動する会員の働きを見てチームワークの良さに感動致しました。

北海道の中央分水嶺踏査の成功 は、会員の総力をあげた結果で、皆 様のご苦労、困難を乗り越え、時間 を費やした探検と冒険の要素を持つ 貴重な体験をお祝い申し上げます。

最後に一言、雪洞内の寝心地は最 高でした。



雪洞内の様子(赤外線ビデオ)

南北交流登山⑤

## 北海道 あれこれ

No.13499 伊藤 久 次郎

## 冬山の昼食

九州では、山の昼食は握り飯が普通であるが、北海道の冬山はパンが普通である。何故か? というと、北海道はロシアに近いから・・・という理由ではない。それは、寒さ、温度のせいで、握り飯は寒さに弱い。凍ってしまいガチガチになり食えなくなる。パンは寒さに強く、凍らず食える。登山の前日、五色温泉で、寝る前に皆で寄ってたかって、切った食パンを応接台に並べ、チーズやレタスなどをはさんで人数分の弁当を作った。翌日チセヌプリ山頂で立



翌日の昼食をつくっているところ

ったままこれを食べた。九州では、 行動食として時々利用しているが九 重の冬山でも零下10度まで下がる ことがあるのでパン食も用意したい と思う。

#### 50年間使用しているキスリング

北海道の初日、五色温泉に着いて 先ず驚いたのが、私が40年前に使 っていたものと同じキスリング(ザ ック)がほかのザックに混じって、 玄関先に置かれていたことだ。そし て部屋の割り当てがあり、私は新妻 支部長と同じ部屋に入ることになっ た。そして、その部屋に持ち込まれ たのがそのキスリングであった。聞 くところによるとそのキスリングは 50年間も使用しているとのことで、 更に左右のポケットも入口が長く付 け足され改良されていた。今では山 岳博物館に行かないと全く見当たら ないもので、貴重なものである。又、 現在のストックは、金属製のものが 普通であるが、新妻支部長が持参し ていたストックは、何と竹製で握り はテープが巻かれ、一般のストック より長めであった。

#### スノーシューの歩き方

新妻支部長の説明によると、スノーシューで雪面を歩くときは、足を引きづるようにして歩くと良い。雪を後ろに跳ね上げないこと。ザック

の背中に雪が一杯ついている人は、歩 き方がへたな人であると。

#### 雪洞掘りの道具

九州では雪洞を掘るような雪が降ら ないので、このような道具は持って行 かないが、雪国では次のような道具を いつも車に積んでいるようである。

スコップ・・・大型の角張った もので、柄が空洞で伸縮し短くなるよ うに出来ていて大変軽い。普通の土砂 などで使用すると壊れそうな感じ。あ くまで雪かきのために作られているよ うである。

ノコ(鋸)・・・ノコで雪をブロック状に切るため。3月ともなると雪が締まり、かなり硬くなる。長さ60センチ位の普通のノコと雪専用の目が荒いノコがあった。このノコを使ってたて、よこ、斜めと切り目を入れていき、そしてスコップで簡単にブロック状に取り出す。この技は、北海道支部の会員は女性まで習得している。

ブルーシート・・・・キャンプの 床シートだけに使うのではない。雪洞 掘りで出て来た雪の塊をこのシートに 載せある程度溜まると4人がかりで引 っ張り、近くの窪地に捨てるのである。 また、雪洞完成後、入口の扉にもなる。

防水ゴム手袋・・・普通見かける 作業用ゴム手袋と思うと全く違ってい た。その手袋をはめると中はホカホカ。 何と中は二重の毛皮状になっていた。ゴム長靴も中は同じで、さらに底はスパイクとなっており、アイスバーンの雪面などは安心して歩けた。このゴム長を履いていたら高島さんも転ばないで済んだのに。

#### 見物人

我々が雪洞を掘っていると観光客 5~6人が、我々の行動を不思議に 思って見学にやって来た。観光客は、我々が3カ所も雪を掘っている様子 から遭難者の救助をしているものと 思ったらしい。それで会員の1人が「金がないので今夜の宿を造っているところです」と説明していた。明くる朝、再びその観光客が手みやげのお菓子を持って見学にやって来

た。雪洞の中に入り、この中で17人 も寝たことに驚いていた。

#### 狸の訪問

夜が白々と明けた頃、小用足しのため雪洞を出て赤く染まった空を眺めていると、どこからともなく一匹の狸が現れ、雪洞付近まで近づいてきた。もちろん私がいるのはご存知のはず(約5m)、雪洞の付近をしきりに嗅いでいた。それは、昨夜の宴会でその付近に小便を何カ所もしていたからである。狸は何かエサでもあるかと思ったであろうが、(糞)をして立ち去った。この様子はハイビジョンビデオにバッチリ収めている。



雪洞の入口付近に現れたタヌキ

 $\infty \infty \infty \infty \infty \infty \infty \infty \infty$ 

以上とりとめもないことを書きましたが、書き出すとあれもこれもときりがないのでこの辺でキーボードから指を離しましょう。

今回、このような交流登山が実現できましたことは、計画から実行まで、車や装備品を提供していただくなど、北海道支部会員一同の協力があってのことと大変有難く思っています。厚く御礼申し上げます。

南北交流登山⑥(山スキー班)

## 雪質の悪さに悪戦苦闘

NO、13643 関 口 興 洋

昨年10月、福井支部主管で開催 された全国支部懇談会の席上、北海 道支部の長谷川副支部長(今年4月 14日の北海道支部総会で支部長に 選任された) から「九州では経験出 来ない冬山を北海道で味わって貰い たいのでぜひ来道願いたい」とのお 誘いを受けた。果たして実現できる か不安であったが、最終的に当支部 より6名の参加希望があり、3月21 日~25日の日程で交流登山が実現 した。これはひとえに、新妻支部長、 長谷川副支部長以ほか北海道支部の 多数の会員の絶大なるサポートの賜 物である。あらためて感謝したい。 全体の行動は原さんの報告に譲ると して、私は山スキー班に一人だけ参 加したので、顛末を記したい。

山スキー班は分水嶺踏査で大活躍 された中村喜吉さんをリーダーに6 名のメンバーで構成。

3月22日、快晴・無風の下、ス ノーシュー班とともに五色温泉を出 発しチセヌプリのスキー場へ移動す る。ここでシールを装着しリフトに 乗車。高度が上がるにつれ、白く輝

く羊蹄山が右手の視界に入ってくる。頂 上駅でスノーシュー班と別れ、チセヌプ リの頂上を目指す(9:40)。 ゆるやかな 樹林帯を過ぎると前面に真白な広大な斜 面が現れる。下から眺めるとかなりの斜 度である。上空は抜けるような濃紺の世 界。空と地上のコントラストが際立って いる。リンゴを食べながら休憩している と、スノーシュー班が西側の斜面を登っ てくる。北東側の斜面は雪崩れる恐れが あるので立ち入り禁止区域であるとリー ダーから説明がある。斜度が増すにつれ ジグザグ登行となる。このあたりから、 10年以上のブランクのつけが出始める。 シールをつけた板面をフラットに踏み込 まないで少しでも傾斜するとエッジがき き板が滑り出す。前を行く助田さんがス イスイと登っていくのを見ていると、分 水嶺踏査で活躍されたのが頷ける。とて も助田さんのスピードにはついてゆけな いのでゆっくりとマイペースで登るしか ない。それでもなんとか頑張りチセヌプ リ頂上(1135m)に到達(11:18)。

リーダーの心遣いで三角点タッチは一番乗りとなる。ブルースカイの下、360度の大展望が広がる。北西に日本海、北



スキーで滑り降りる途中で、転倒する決定 的瞬間! はて、誰? (ビデオから)

に遭難事故が発生した積丹半島の山並 み、東にはニセコアンヌプリ、秀麗な 羊蹄山、南には特異な山容の昆布岳、 東南には洞爺湖畔に建つホテルまで遥 かに望まれる。

(後日談:来年のサミット首脳会談の 場所に決定)

頂上でスキーを外し、つぼ足で北側に向かい頂上からは見えなかった角度の眺望を楽しむ。ここでカンビールで乾杯の後、特製のサンドイッチと温かい紅茶で昼食をとる。そのうち、スノーシュー班の新妻支部長以下の面々が到着し賑やかになる。三角点で全員の集合写真を撮った後、いよいよ下山開始。スキー班はさきほど登ってきた道を辿りながら滑降開始するが、雪質が悪くいわゆるモナカ状でスキーの操作がうまくできない。このような雪質は無理をすると怪我するので、斜滑降とキックターンを繰り返しながら降りる。

悪戦苦闘している中で中村リーダー だけは、軽快に滑り降りてゆく。さす

が山スキーの名手である。漆崎さんも ショートスキーを駆使して悪雪をコン トロールしながら先行する。

何とか平坦な場所まで下ると疲れが 一気に出てくる。傾斜の緩やかな斜面 で転倒すると起き上がるのが大変であ る。一度は悪雪に前から突っ込み、も がいているとTさんの被写体にされてし まう。

それでも、スノーシュー班より相当 早くリフト終点に到着する。頂上に比 べ気温が高く、冬支度では汗をかくほ どになる。リフトを利用しゲレンデを 3本滑る。自称「ゲレンデの元女王」 鶴岡さんの華麗な滑りを後ろから見な がら慎重に滑り一日を終える。

3月23日、曇り

前日ほどの好天ではないが、今日も同 じメンバーで五色温泉の脇からイワオ ヌプリへ向かう (9:25)。



秀麗な羊蹄山がすぐそこに見える

今日は樹林帯でスノーシュー班に追 い越される。樹林帯を抜けると雪の大 斜面である。

ただ、時間がたつにつれ頂上部はガス に覆われ始める。大斜面を登り始めた が、傾斜がきつく助田さんはスキーア イゼンを装着する。アイゼン無しでは 無理と判断し早々に白旗を揚げる。漆 崎さんもリタイア宣言。中村さんも今 日はショートスキーのためか途中で撤 退開始。

助田さんと田島さんがスノーシュー

班に追いつくが、途中から引き返し てくる。

全員揃って五色温泉へ向かう(11 :45)。今日の雪質は前日の雪より更 に悪く、やはり斜滑降とキックター ンを繰り返しながら降りる。それに 疎林であるが樹林帯の中を下るので、 衝突しないように気を使う。30分か けて五色温泉に無事辿り着く(12:1 5).

1月・2月に雨が降り、その後冷 え込んだりで雪質が悪く、粉雪の世 界に触れることができなかったのが 残念であるが、お天気に恵まれたこ とは真にラッキーであった。

中村リーダー以下、皆様のサポート に対し有り難く感謝いたします。

(平成19年4月25日記)

#### 交流登山参加者 合計 17 人 (敬称略)

北 海 道 支

徹 5868新妻 6103 長谷川雄助

10978 中村 喜吉(スキー)

12865 12995

三戸部清文

助田 陽一(スキー) 12996 助田梨枝子

13041 漆崎 裕子(スキー)

13058 田島 祥光(スキー) 13442 樋口みな子

鶴岡 節子(スキー) 13982

14271武田 一生 北 九 州 支

11990 原 広美 13499 伊藤久次郎 13541 高畠 拓生

13643 関口 興洋 (スキー)

13986 室津 健次 13992武史 山田

## 月例山行報告 十種ヶ峰山行記 4/15

## ヤマシャクヤクは まだ早かった

北九408 佐 伯 近 史



十種ヶ峰山頂にて

#### 参加者8名

11990 原 広美 13643 関口 興洋 北九255 岡村 廣雄 北九361 立石サツミ 北九362 佐藤 照美 北九389 森本 信子 北九400 倉本とき子 北九408 佐伯 近史

日本山岳会北九州支部の会員になっ て初めて登山に参加させていただいた。

今回はヤマシャクヤクの花観賞登山 ということです。朝7時22分九州か らの参加者3名を乗せジャンボタク シーが下関に着く。今日は朝から降 りそうな雲行きである。雨が降らな いことを祈りつつ下関を7時30分に 出発する。徳佐の近くで白いナシと コブシの花が満開。ピンクの桃花も きれいだった。神角登山口に9時35 分到着、登山準備を終え9時45分出 発、登山口民家庭先に紅白のシバサ クラが満開できれいだった。そこか ら少し登ると畑一面に白いワサビの 花が満開だ! 登山道は急登はなく 歩きやすい道でレンギョウ、イカリ ソウ、スミレ、ヒトリシズカなどの 花、そして木イチゴの花、クロモジ の黄色の花が咲き乱れていた。山頂 近くでは滑りやすい黒粘土質の道だ が横木、クマザサに救われる。

山頂近くではアセビの白い花が 満開だ。きれいだ。途中1本だけピ ンクの花をつけたアセビの木に出会 った。きれいだったのでそこで集合 写真を撮って頂いた。斜面は低いサ サ原に覆われきれいだった。山頂で はパラグライダーを楽しんでいる人 が4~5人いた。11時25分頂上着、 朝方は今にも降り出しそうな雲行き だったが青空が少し顔を出す。陽も 少し射し暑くも寒くもなく最高のお 天気である。十種ヶ峰山頂は視界を さえぎるものはなく青野山、益田の 海、犬鳴山、大将軍、大蔵ヶ岳、野 道山、三ツヶ峰、高岳山、莇ヶ岳が 見える。少し早いが頂上で食事をと ることにした。森本さんにぜんざい を作って頂き皆でごちそうになっ

た。山登りで疲れたときのぜんざいは 最高にうまい!! 森本さんありがと う! 山頂にてGPSで調べるとN34 ° 26′1,8″ E131°41′43″1 標高988 nでした。地図では989mと書いてある。 差は1m GPSの精度はすごいものだ! 楽しい食事を終え12時30分山頂出発、 南東方向へ谷を下るとヤマシャクヤク の姿が見えてきた。まだつぼみは固く 2週間後に開花するのではないかとの こと。一面に花が開花したとき一度は 来てみたい! 少し下るとエイザンス ミレ エンレイソウ キランソウ ラシ ョウモンカズラ ルリソウ ミヤマカタバミ キケマンなど多くの花が開花していた。13時50分林道に出る。少し下るとシランソウ ミツマタ フデリンドウ ツボスミレなど春の花がいっぱいだ! 又民家近くに樹齢150年のしだれ桜の樹があった。立派な老木だ。開花時期には奈良県からも花見に来られるという 14時35分登山口到着後45分出発 奥湯田温泉「山口ふれあい館」の温泉(入湯料¥100)に入り18時10分下関着

時には花を見ながらゆったりとし

た山行も楽しいものだと思った。山 芍薬の花が見られなかったのが残念 でしたが色々な花が咲いていました。

皆さん大変お世話になりました。 今後とも宜しくお願いします。

#### コースタイム

小倉駅北口6:50→門司駅北口7:00→ 下関7:20国道2号→阿東町:国道315 線→神角登山口9:50→十種ヶ峰山頂: 昼食11:25 12:30→下山14:35→奥湯 田温泉15:20→小郡→国道2号下関18 :10→門司18:40→小倉19:00着

## ◇◇◇報告・お知らせなど◇◇◇

## 『山のトイレを考えるフォーラム in福岡2007』 開催と共催のお願い

主催:『山のトイレを考えるフォーラムin福岡 2007』 実 行委員会(実行委員長 山上 司)

日時:2007年6月17日(日)13:30~16:30

会場:太宰府館 TEL092-818-8700 太宰府市宰府3-2-3

西鉄太宰府駅から徒歩2分

参加費:500円

内容:①基調講演 仲俣 善雄氏

北海道山のトイレを考える会 広報部長

②各地からの報告

福智山 太田 徹哉氏(筑豊山の会)

英彦山 永井 直氏(英彦山霊山会)

宝满山 稲富 清治氏(西鉄山友会)

福岡県内の山中、登山口のトイレ設置状況と課題 福岡県勤労者山岳連盟

③意見交換

実行委員団体:福岡県山岳連盟、福岡県勤労者山岳連盟、 九州登山情報センター、西鉄山友会、九州の

原生林を守る福岡の会、竈(かまど)神社、

あだると山の会

協賛団体:福岡市山岳連盟、九州鉄道山岳連盟(要請中) 日本山岳会福岡支部、**日本山岳会北九州支部** 

実行委員会連絡先:九州登山情報センター

太田 勝(092-928-2729)

福岡県には、宝満山、福智山、英彦山、古処山を始め、 県内には登山愛好者が多数訪れる山が沢山あります。この ような登山者の多い山では、山中でのし尿放出による水質 汚染、自然環境破壊などが山域全体に広がり、全国的な問 題となっています。

県内の主な山は県立自然公園に指定され、さらには九州 自然歩道の一部にもなっていますが、将来にわたって山の 環境を良好な状態に保つためには、登山者のマナー向上、 トイレ施設の拡充と維持管理など、その山の特性に応じた 適切な方策を講じてゆく必要性を強く感じています。

このような山の環境問題解決に向かって具体的な取り組

みをする第一歩として県内の主な山岳団体、自然保護団体、 公共機関、地域の方々と山の自然保護、環境改善にどう取り組めば良いのか等の意見交換と検討すべく、『山のトイレを考えるフォーラムin福岡2007』を企画、開催するものです。

## 【予 告】

## 1、福岡支部創立50周年祝賀会

- ○日時 2007年9月29日(土)16:00~20:00
- ○場所 福岡市 西日本新聞会館16階福岡国際ホール
- ○記念講演会 中村 保氏「ヒマラヤの東」 1934年東京生まれ。一橋大学山岳部○B。中国南西周 辺の旅は、28回に及ぶ。著書に「ヒマラヤの東」三部作 がある。2003年秩父宮記念山岳賞受賞。日本山岳会英文 誌編集人。
- ○記念ハイキング 9月30日(日)「万葉の里ハイキング」 四王子山~太宰府政庁跡周辺
- 2、福岡支部創立50周年記念トレッキング「秘境カンリガルポ山群の山々を訪ねて」
- ○期間 2007年11月前半の約2週間の予定 福岡支部カンリガルポ調査参加メンバーが案内します。 支部会員に関わらずどなたでも参加いただけます。 詳細は、福岡支部事務局まで。

## 伊藤久次郎 「山」の 版 画 展

日本山岳会北九州支部 協賛



英彦山は、本年5月27日(日) の山開きを迎えると本格的な登 山シーズンとなり、花公園では 春の花々が咲き乱れ、山は新緑 に包まれ、一年で一番美しい季 節となります。

英彦山においでの際は、ぜひ お立ち寄りいただきますようご 案内申し上げます。

期間 5月22日(火)~6月10日(日) 10:00~16:00 場所 福岡県田川郡添田町

> 英彦山スロープカー花駅ギャラリー (TEL 0947-85-0375)

## 山行計画のご案内

## 5月の山行

## 英彦山(1200m)前夜祭と山開き

○前夜祭:添田町主催で、5月26日(土)午後7時から英彦 山野営場で。山岳会員は、午後4時、別所駐車場 集合。宿泊はキャンプ場バンガロー(5棟予約済 み)。宿泊者は寝袋その他(?)持参。会費千円。 参加申込は、関口(093-382-6436)

又は伊藤 (0947-42-2772)

○山開き:5月27日(日)午前11時、山頂上宮。参加者は昼 食、雨具など持参のこと。集合は午前8時30分 別所駐車場

## 6月の山行

日本百名山・美濃第一の高峰

1 恵那山(2191m)と

上高地ウェストン祭 6/1~6/3

期日: 2007年6月1日(金)~6月3日(日)

交通: JR (新幹線~中央線~バス)

行程:

6月1日 小倉発8:44(のぞみ10号) 名古屋着 11:45 名古屋発12:00 (しなの11号 中津川着12:47 (中津川泊)

6月2日 恵那山往復(黒井沢登山口まで往復タクシー利用)、標高差約1000m、歩行時間6時間半(ネット)中津川~松本(JR)、(松本泊)

6月3日 松本発6:35 (松電&バス) 上高地着8:20 ウエストン祭参列、昼食会出席、上高地発14:00 (バス&松電) 松本~名古屋発18:57~小倉着22:12

費用: 概算60,000円

申し込み:関口興洋 (TEL/FAX: 093-382-6436)

〆切:5月20日

九重山系の山(オオヤマレンゲ観賞)

2 合頭山(1383m)·猟師岳(1423m)

· 黒岩山(1503m) 6/17

期 日:2007年6月17日(日)

交 通:マイクロバス

詳細については、3月発行の北九だより第34号に記

北アルプス・槍ヶ岳の四季

## 穂刈 貞雄・康治 山岳写真展

期日 2007年7月8日(土) ~7月22日(日) AM10:00~19:00

会場 北九州市小倉北区室町リバーウオーク5階

「アート&エコスペース」 主催 信州観光センター・北九州、日本山岳会北九州支部

主催 15川暖ルで、 共催 北九州市

後援 アルパインツアーサービス、アミューズトラベル、 サンサン山倶楽部、(株) J T B 九州

内容 展示作品 槍ヶ岳山荘 穂刈貞雄氏作品集から3点 穂刈康治氏作品集から16点

日本山岳会 伊藤久次郎氏の版画作品数点

入場料無料。問い合わせは信州観光センター・北九州 電話/FAX 093-541-0259 載済み。若干の余裕がありますので、参加希望の方は 西村信子(TEL・FAX 0930-33-4618)まで。

## 7月の山行

国内唯一の「ツチビノキ」観賞(宮崎県)

鉾岳(1277m)・鬼の首山(1491m) 7/7~7/8

**期** 日:7月7日(土)~8日(日)

通:マイクロバス

集合場所:7月7日(土)10:00 小倉駅北口KMMビル前 行 程:7月7日 小倉一10号線延岡―北方町―鹿川

鹿川山荘(泊)

7月8日 山荘一鬼の目山一鉾岳一山荘よりマ イクロバスにて一小倉

費 用:約15,000円

申込み先: CL 山田 武史 (tel/fax 092-844-3563)

締 切:2007年6月15日

## 8月の山行

北アルプス・高山植物観賞

白馬岳(2932m)~朝日岳縦走 〈健脚コース〉 8/10~8/14

期日:8月10日(金)~14日(火) 交通:JR(新幹線~中央線~大糸線)

行程:

交

8月10日 小倉~名古屋~松本~信濃大町~猿倉

~白馬尻(泊) 8月11日 白馬尻~大雪渓~白馬山荘(泊)

歩行時間6時間(ネット) 8月12日 白馬山荘〜白馬岳〜三国境〜雪倉岳〜朝日岳

(朝日小屋泊) 7時間

8月13日 朝日小屋~蓮華温泉(泊)6時間半

8月14日 蓮華温泉~平岩~松本~名古屋~小倉

費用: 概算 77,000円

申し込み:関口興洋 (TEL/FAX 093-382-6436)

**〆切:6月30日** 

(注) スケジュールの詳細は参加者希望者に別途お知らせ します。また、事前の打ち合わせ会を行う予定です。

## サロン ルーム

毎月第4水曜日

5月のサロンは、23日(水)(大部屋予約済み) 6月のサロンは、27日(水)

時間 午後6時30分から

場所 小倉北区魚町「コール天」

(魚町銀天街、酒房武蔵より西へ約30m)

費用 3,000円前後(ワリカン制です)

## 編集後記

○ 北海道の原稿を沢山書いて頂き、今回も12ページとなりました。

- 支部発足以来一度も投稿したことのないあなた。一度 は何か書いてみませんか。お待ちしております。又、会 報作りに興味のある方もお待ちしております。
- 山の原稿は、事務局(関口事務局長)又は 〒826-0032 田川市西平松11-8 伊藤久次郎宛。 Ⅲ/Fax 0947-42-2772

Eメール原稿は、rw4ux6@bma. biglobe. ne. jpへ